

翻刻 松本市立美術館所蔵 石井鶴三《スケッチブック》

福江 良純（北海道教育大学釧路校 美術教育研究室）
雲岡 梓（北海道教育大学釧路校 国文学研究室）

はじめに

本資料は、松本市立美術館が所蔵する石井鶴三（一八八七—一九七三）の昭和二六年のスケッチブックから、木彫藤村先生像（第二作目）の制作記録が確認できる一冊（図一）を翻刻したものである。左開き、二十枚の薄手の画用紙からなる小さなスケッチブックの冒頭二頁（図二・図三）に制作の日誌、続く二頁（図四・図五）には、制作二日目の木彫の木取りスケッチが描き込まれている。なお、冒頭二頁については、制作記録とは直接関係のないメモ書き（電車の時刻などを書き留めたものか）が見られるが、それも併せて翻刻した。

頁。昭和二六年七月二〇日から昭和二六年七月二三日まで
の記録。

【凡例】

- 一、漢字の旧字体や略字、異体字は、原則として現行の字体に改めた。
- 一、底本の仮名遣はそのまま残した。
- 一、本文には、読み易くするために適宜句読点を補った。
- 一、本文には、必要に応じて濁点を付した。
- 一、判読不能箇所は、文字数分の□で示した

《スケッチブック》一頁目

廿日 □□□□木合して来る。

木取難行。来客ありて心乱されたるにてもある如し。疲労甚し。

朝、中西先生木取写真

廿一日の一時陽さず。連日睡不足にて疲労感あるにより、今朝は（五時一度めざめたれど再ねむり）八時近く起き出づ。千村氏は七時の汽車にて帰られたり。

【書誌】

底本 松本市立美術館所蔵、石井鶴三《スケッチブック》。一冊。

縦一四・三×横二〇・五（cm）。

年代 昭和二六年。

行数 不規則。

備考 翻刻箇所はスケッチも含めて、スケッチブックの一頁から四

木取細部に進行す。概ね形態成て来り。

四時、中西先生写真撮影。浄親寺和尚帰院、対面。まもなく数原帰らる。

六時過ぎに

六、四四分発十分遅れて宮の越に来たり。駅にて長谷川重松氏に会ふ。

この汽車にて帰り来られたるなり。同道、和村にとまる。疲労感深く、伊那より新に造せられんとする一間の構造につき話し合ふ。

廿二日三時にめさむ。もう少しねむらんとすれど、ねむれず。鮎川、

白田二人尋ね来て

くもりなり。されどうすひさし来る。七時　くまかたを

一〇、一八宮越発奈良井にかへり、車中陶山氏は奈良井にゆくとこるなるを、大和、渋谷、江崎氏来て待ち居り。十二時過、長野より両田原氏来る。

鈴木先生、田中校長、なほ一人大勢集り研究会。

一九一五、長野連、諏訪松本方面の人々帰る。連日睡不足にて、仕事をため、疲労しむたりしが、今日は一日木取りよりはなれ、却つて疲れやすまりし如し。常は人疲れするところなれど。

夜、大夕立来る。陶山氏奈良井

日中快晴なりしが、夕から曇り来り。

1240 ↓ 1301

16 17 18 19 20 21 22 23 24

25 26

27 28 29 30 31

日

日

10.18 ↓ 10.30 ↓ 奈

17 | 1915 ↓ 長野 2247

1 2 3 4 5 武田

1844 奈 1903 宮 長野より奈良井着

上 伊那郷伊那町

十二時廿分

建設事務所長

長谷川重松氏

教育会四時まで

薬師 歩 五六分 ふ堂横の

廿三日 十四卅五分奈良井発十五時四分福島

2、3分

3、04

《スケッチブック》二頁目

廿三日晴 鈴木先生親戚不幸ありて、あさひ村にゆかれたりと。

朝起きて木取りこと案じ、今日きるべきところ概略考へ成り、ねどこたゝみたるどころ、草家人、陶山氏と来り、けさはめづらしく朝ねせしよといふ。

ひぎの上左袖の前、両肩のうしろなどおとし、頭部顔面のこまかなるところをきり、概略かたちとゝのひたり。十二時の汽車にて、中西氏、島崎、楠森氏来られたり。二時の汽車にて福島へゆくよていなりしが、それまでに写真撮影少しくむつかしきやうなると、いま少しにて、木取りの方も碗形とゝのふりければ、次の五時の汽車にのばすことゝす。

中西氏、福島方へれんらくされ、四時より写真にかゝり、四時四十五分出て、五時発福島へゆく。

福島町は水無神社祭と御岳神社千二百年大□奉とにて、賑へり。

たかてるひめ

(この仏像 廿六年九月五日拝観したり。よき作にあらず。弘仁勘作といふもいかゞにや。或は後世の擬古作にあらざるなきや。ことうたがふ)

福島町 願行寺 弘仁勘作薬師仏ありと。但し昔より木曾に伝はれるものにあらず。近く気良より将来せるものといふ。

【筆者注 木曾願行寺 長野県木曾郡木曾町福島】

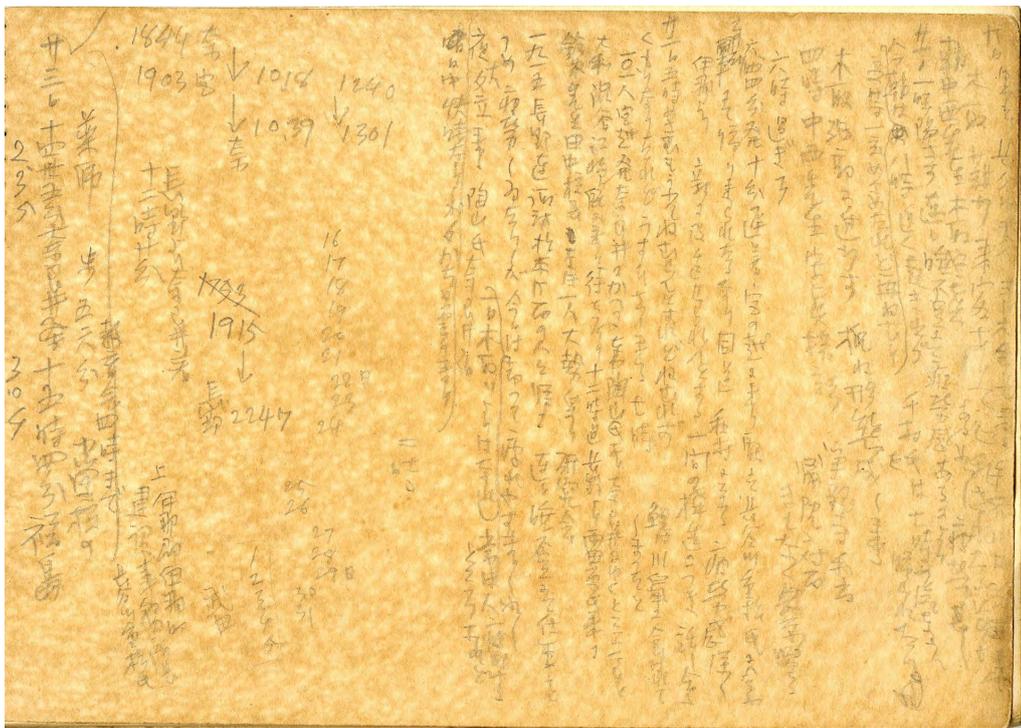
【図版】

図一 《スケッチブック表紙》 昭和二六年

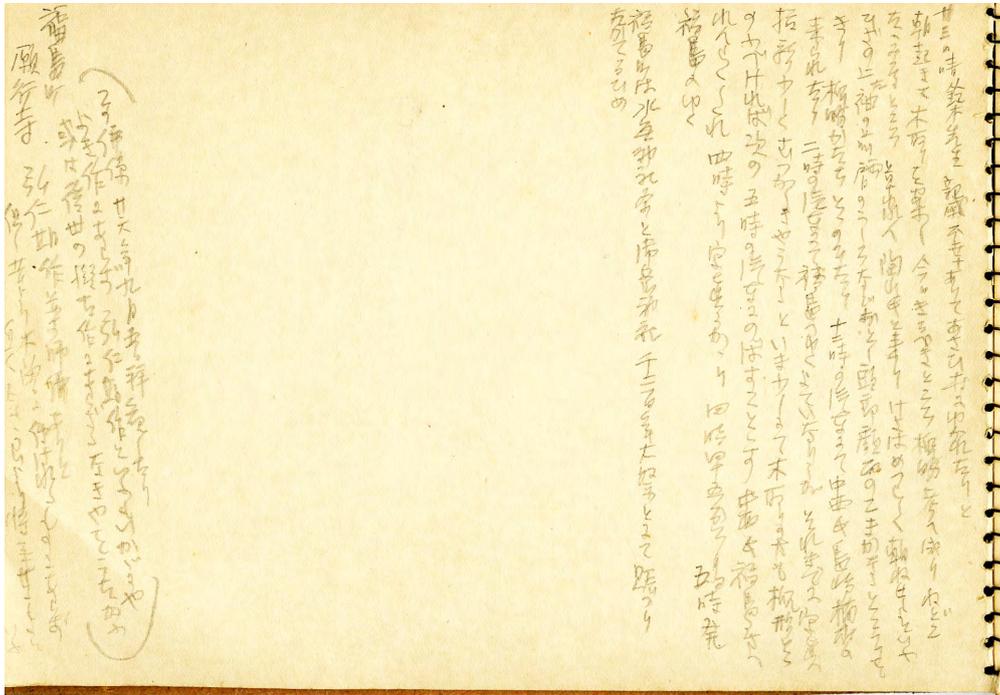
画像：筆者撮影



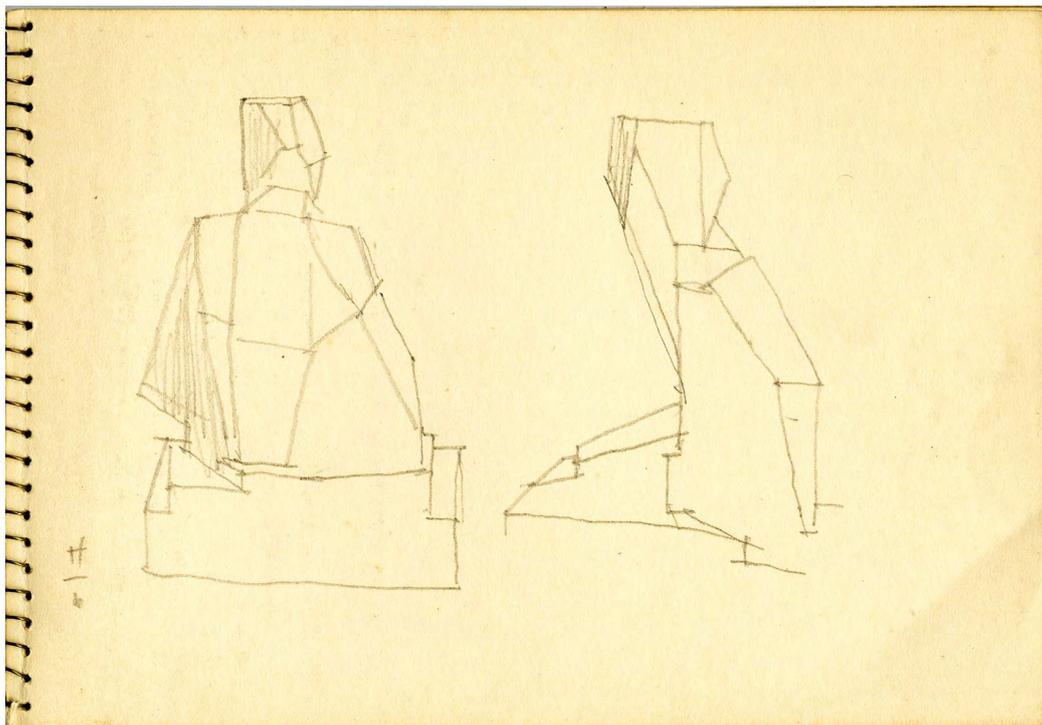
図二 《スケッチブック》一頁目(翻刻一枚目) 昭和二六年
画像：松本市美術館蔵



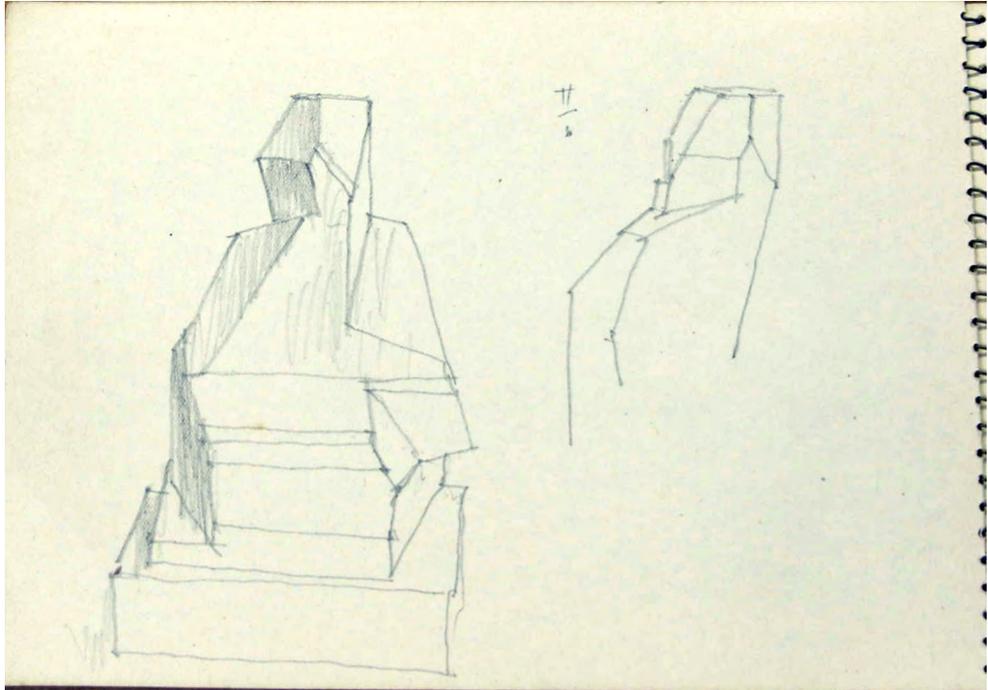
図三 《スケッチブック》二頁目（翻刻二枚目） 昭和二六年
画像：松本市美術館蔵



図四 《スケッチブック》三頁目 昭和二六年七月二日の木取り
画像：松本市美術館蔵



図五 《スケッチブック》四頁目 昭和二六年七月二日の木取り
画像：松本市美術館蔵



藤村像制作事業と本資料について

昭和二四年八月二日に始まる、信州木曾福島における藤村像制作事業は、「木曾の檜で木曾の地で藤村先生の像を石井鶴三先生に作っていただけたら」という木曾教育会の人々の願いに支えられ、数年に及んで二体の木彫藤村先生像が成るといって一大文化事業であった。二体の木彫藤村像のうち、第一作目は木曾教育会の郷土館、第二作目は東京藝術大学美術館が所蔵している。ちなみに、木彫制作で活用された第一作目、第二作目それぞれの石膏原型も、第一作目分《藤村先生像試作》は東京藝術大学美術館に、第二作目分は木曾教育会の郷土館に収められている。

藤村像制作事業の意義については、東京藝術大学石井研究室の助教授を務めていた笹村草家人（一〇九〇—一九七五）の言説に詳しくあるように、「真に近代的な造型をはつきりと方法上に示している」という木彫の制作手法にある。それは「一箇の木材をずばりずばりと切つて落として物をつくる」木彫木取り法の正統性をもって「木彫に近代芸術の活路を確立せんとする特別な意味を」開示するものであった。ここに日本木彫史上の重要性を確信した笹村は、その鋸で切り落とされた木片すべてに日付と部位を付し、また、藤村像の造像経緯に関する言説を多く残した。

これまでに確認されている木彫藤村像の関連史料は、制作工程の写真を除けば、木彫第一作目に関するものがほとんどで、日々の制作の記録として、石井の「島崎藤村先生像刻木日記」、笹村の「藤村先生木像制作覚書」が木曾教育会郷土館に残されている。木彫第二作目に関する同形式の独立した制作記録は未だ存在が確認されおらず、その意味では本資料が公刊された初めての第二作目関連の制

作記録と言える。

木彫藤村像の近代性は木取りの斬新さにあり、右の制作記録類もその内容が中心となっている。しかしながら、第一作目には制作記録とともに残された木片が、第二作目に関しては、その存在自体が定かではなかった。ところが、平成二五年八月二七日に、第二作目の木片が、木曾教育会職員および福江によって郷土館中に発見され、その木片に付された記録内容から、木取りの工程期間が昭和二六年七月一九日から七月二三日であることが特定された。底本から読み取れる日付は二十日から二三日までであり、底本の記録が木取り初日の一九日を除く一連の制作工程に対応するものであることが、木片との照合で確認された。

また、これとは別に、石井には七十年近くにわたって書き続けられた日記が残されているが、それは当然、木取りの制作期間を含んだものである。木彫第二作目の制作初年度が昭和二六年七月から八月にかけて、第一作目と並行するように着手されたことは以前より知られていた。第二作目の木取りに関する記述も、石井の日記中に確認できる^(七)。ただし、これは、底本の翻刻がほぼ完了した時点で判明したことであるが、日記の記述内容は、その文面も含め、底本のものとはほぼ同じであった（木曾教育会寺嶋匡彦氏のご指摘による）。つまり、底本は第二作目の制作記録であり同時に、日記の構想原稿でもあった事になる。このことは、石井の日記に関する新しい理解をもたらす事実と言えるだろう。

底本となったスケッチブックは、平成二二年に石井鶴三の法定相続代理人の岩部定男氏によって寄贈された史料の一つである。絵画、彫刻、その他の石井作品及び画稿、冊子類など、総数にして二〇六一二点という膨大なものであった^(八)。そのうち、スケッチブック

クの数一二〇六点。底本と同じ昭和二六年に使用されていたスケッチブックは二四冊あり、石井の巨人とも言える仕事量を窺わせる。底本の翻刻箇所はすべて鉛筆で書きこまれたもので、用紙が擦れて劣化し、判別のつかない文字が散見された。判読不能の箇所は□で残してあるが、松本市立美術館、木曾教育会の関係者の協力も仰ぎながら、人名や彫刻の技法などを手掛かりにしつつ可能な限り文字をあてはめた。なお、翻刻は国文学研究室の雲岡が担当した。

注

- (一) 中西悦男「島崎藤村先生木彫像」、『木曾教育』第四二号、木曾教育会、昭和四九年、一一一頁。
- (二) 笹村草家人「木曾と石井鶴三先生」、前掲『木曾教育』、一一三頁。
- (三) 前掲笹村、一一四頁。
- (四) 笹村草家人「藤村先生の木像について」、前掲『木曾教育』、一一〇頁。
- (五) 二体の木彫藤村像の制作過程は、翻刻本文中に「中西先生」として記録されている中西悦夫（木曾教育会会員）によって写真撮影された。写真の原板は木曾教育会に保管されている。
- (六) 木彫第一作の制作日誌とも言える石井鶴三及び笹村草家人の直筆史料は、ともに和綴本の状態で木曾教育会郷土館に保管されている。ちなみに、笹村の「藤村先生像制作覚書」は、平成二七年に福江、雲岡が翻刻している。福江良純、雲岡梓「翻刻刻 笹村草家人「藤村先生像制作覚書」、釧路論集―北海道教育大学釧路校研究紀要―第四七号、北海道教育大学釧路校附属図書館運営委員会、平成二七年、九頁―一四頁。
- (七) 石井の昭和二六年七月の日記には、二〇日（金）、二二日（土）、二二

(日)、二三日(月)に、本資料の記録と非常に似通った記述がある。おそらく石井は、スケッチブックに書き留めた制作記録を後日、日記の側に転記したものと思われる。『石井鶴三日記』第三巻、有限会社形文社、平成一五年(二〇〇五)、二九八頁―二九九頁を参照されたい。

(八) 史料寄贈の経緯は、「石井鶴三展」展覧会カタログ、松本市立美術館、平成二二年(二〇〇九年)、二五〇頁―二五一頁を参照されたい。

謝辞

翻刻にあたって、スケッチブックの熟覧および画像の提供にご配慮頂いた松本市立美術館学芸員稲村純子氏、翻刻本文と石井の日記の関係について教示くださった木曾教育会事務主任の寺嶋匡彦氏には大変お世話になった。ここに感謝の意を表す。